

2023年度学校関係者評価

1. 教育理念
教育目標
建学の精神に従い、カトリックの精神に基づいた幼児教育を行う
キリスト教精神に基づく喜びのある教育
元気に遊べる子
礼儀正しく素直な子
よく見よく聞く子

2. 重点目標
・園児の主体性を大切にし、保育者はそれが育つように、活動を計画し、取り組みにも注意を払う。
・体操・リトミックを取り入れることにより、体を思いっきり動かす体力のある子、いつでもはつらつとした子どもの育成を目指す。
・英会話を習うことにより、異文化を知り、将来国際人として視野が広い人間になる基礎作りを行う。

3. 評価目標
・子どもの主体性を育てる保育ができたか
・子ども達の運動能力、リズム感は養われたか
・英語に興味を持ち積極的に使おうとすることができたか

4. 実践報告
◆総合体育研究所 年間35回指導
体操野田先生から
1年間体操指導を通して、運動能力の向上はもちろん、子ども達のやる時はやる力も身についたと感じます。特に運動会本番での子ども達の種目の完成度が高く、成長を一番感じる事が出来ました。
体操の苦手な子、得意な子、個人差がありますが、皆積極的に運動に取り組み、できなかったことができるようになり、体操の時だけでなく、遊びの時間も生き生きと積極的に体を動かしているのを見て指導者としても嬉しく思っています。
ドッジボール等ゲームはルールを守り、楽しく取り組むことができました。

◆セイハ英語学院 年間20回指導
榎間先生から
年少
初めはレッスンの流れに慣れるところから、立つ、座る、など基本的なことから始めましたが、1年が経ち、英語の歌を歌ったり、名前、年齢も言えるようになりました。レッスン以外の時間でも園内で会うと、"Hello!" と声をかけてくれるようになりました。

年中

年少からステップアップして、天気や曜日を学習しました。月毎のトピックでは、乗り物や場所の名前などを、単語ではなく文に入れて言えるようになりました。

年長

年少、年中で学んだことをもとに更に新しいことを習得しました。アルファベットはその音だけではなく、そのアルファベットから始まる単語を学習しました。交通ルール(止まる、見るなど)や道案内(まっすぐ進む、右に曲がるなど)生活の中で使えるような英語も学習しました。

◆リトミックセンター 年間18回指導

佐久間先生から

2023年度はコロナウイルスの制約も解除し始め、歌唱の活動も設けるなど、生徒の皆様が

全身で音楽を感じ、楽しみながら多面的な音楽教育の基礎を経験・獲得することができていらっしゃいました。

学年別に分け、大きく「動き」「音感」について、成果を報告させていただきます。

【年少クラス】

身体の使い方や音楽の流れの中で表現する楽しさを経験していくことを一年間の目標としました。

■動き

・動物の模倣を中心とし、八分音符・四分音符・二分音符の違いを身体で感じ、表すことができるようになりました。

・特に、八分音符はピアノに合わせて走る速さを調性する、二分音符は膝を曲げて歩くという、普段行わない動きをスムーズに行うことができるようになりました。

・音を聞き分け、「この音を聞いたならこの動きをする」という違いを感じる事ができました。例えば、雨の音がしたら傘をさすポーズ、ブレーキの音が聞こえたら片足を出して止まる等です。

■音感

・音の高低差を聞き分け、模倣して歌うことができ、その際、歌い出すタイミングを講師のピアノの前奏を聴いてから、合わせて歌うことができるようになりました。

■その他

・年中クラスに向けて他児と一緒に活動することを練習しました。「二人組」と指示を受けたら二人組になる、その後手合わせや二拍子の手合わせ、フレーズを感じる動き等を行えるようになりました。

- ・スティックを使用し、模倣してリズムを叩くという経験も行うことができました。
- ・このようなことから、自立心・協調性・豊かな感性などを育むための基礎作りができました。

【年中クラス】

指示されるだけでなく、音楽と立体的に関わって表現する楽しさを経験していくことを一年間の目標としました。

■動き

- ・年少クラスから行っていたことを復習しつつ、音だけを聞いて動きを変えることができるよう促しを行いました。例えば、年少では「うさぎだね」等の言語補助や、動物の絵がある視覚補助がある状態で動きのレッスンを行っていましたが、年中からは純粋に音の違いのみを聞いて、八分音符・四分音符・二分音符を表現できるようになりました。
- ・他児と一緒に、二拍子・三拍子を経験することができ、講師のピアノの演奏を聴いた後で、「これは何拍子？」と聞かれると、正しく答えられるようにもなりました。

■音感

- ・ドレミファソラシドの音階をポーズを取りながら歌うことができるようになりました。（ポーズを取りながら歌うことで、その音を正確に表現できるように促す為です）
- ・ドレミ、ミレド、ソラソ、ソラシド…等の音をピアノで弾くと、音の違いを聴き分けて、正しく音名を歌えるようになり、絶対音感の基盤となるものを獲得している生徒さんも多くいらっしゃいました。
- ・このようなことから、自立心・協調性・共感力・豊かな感性が少しずつ育まれていきました。

【年長クラス】

音楽の要素を身体で表現する喜びを味わう経験を通して、想像力・思考力・創造性育んでいく基礎作りを一年間の目標としました。

■動き

- ・三年間を通して、自分自身の体を思ったように使うことができるようになりました。音に合わせた高度な動きもできるようになり、例えば手は四分音符のクラップ、足は二分音符のステップを行う等です。「変えて」「チェンジ」の合図で手足の動きを逆にするということにも挑戦することができました。

■リズム

- ・名詞の言葉をリズムに見立て、様々なリズムを経験しました。例えば「ラムネ」と聞き、リズムでは「八分音符+四部音符」で構成されていることを理解し、リズムカードから正しいリズムを選択することができるようになりました。
- ・「カノン」という動きを獲得しました。
（講師）「りんご」（生徒）「りんご」のように、講師が発した言葉とポーズを模倣して
い

く中で、生徒が言葉を発している間に次の単語を講師が発し、単語を聞き取りつつ模倣を繰り返すということができるようになりました。

- ・カラーボードを用い、視覚的に確認しながら休符の概念を理解することも経験しました。ボードを床に4枚並べ、順にスティックで叩くという課題の際に「2はお休み」と言われたら、2枚目（2拍目）は叩かずに休符とする、という活動がスムーズに行うことができるようになりました。（同じように1～4拍それぞれの休符を経験しました）

■音感

- ・ドレミファソラシドのポーズを取りながら歌うことができるようになりました。その際突然「これは？」と指導員がポーズを見せると「ソ」等と音を歌いながら答えることができることや、指導員と順番にドレミファソラシドを歌うことを通して、心唱することを経験しました。

- ・3年間「音のクイズ」と称して音を当てるクイズを行っていたことで、絶対音感が身に付いている生徒さんも多くいらっしゃいました。

- ・このようなことから、「気づくこと」「分かること」「できること」の基礎作りができ、豊かな感性を育てていく力が芽生えてきました。

5. 正課の体操、英語、リトミックについて保護者から

- ・とても良い取り組みだと思います。家庭ではできないことを幼稚園で実施していただき、非常に感謝しております。

- ・とても楽しんでいました。

- ・運動・語学・音楽と五感をフルに使い、バランスよく触れられて非常に良いと思います。子どもは楽しみにしていました。いろいろな経験はこれからの成長に繋がると期待しております。

- ・楽しく学ばせていただき、体操でこんなことをした、英語でこんなことを言った、リトミックでこんな動きをしたと嬉しそうに伝えてくれます。

- ・専門の先生からの指導が受けられてとてもありがたいです。

- ・保護者も見学でする機会があったらよかったです。

- ・運動会の時の演技も素敵でした。

6. 【2023度重点的に取り組んだこと】

子ども達が主体的に活動できるように、保育者は言葉がけや環境づくりに努めていくようにしました。特に年長ではできるだけ子どもたちが話し合いを行い、自分たちで考え、行事を進めていくように努めました。

結果：運動会で行う競技、競技の説明文作成、並びにその発表を子どもたちが考えて行い

ました。また、クラス対抗リレーでは自分たちが勝つにはどういう順番で走ったらよいかをクラス内で話し合っただけで決めました。

子ども達は話し合いにも慣れて、特定の子のみが意見を言うのではなく、それぞれが自分の考えを言って、友達の意見にも耳を傾けより良い方法を編み出すまでになったようです。

数年前に園の行事から外した「音楽会」は、クラスで音楽遊びをするところから好きな曲の合奏をしたいという子どもたちの声で練習をはじめ、結果保護者に見ていただく発表をすることができました。

また、年長は段ボールを使って遊園地の遊具を作り、年中、年少に招待状を出して遊んでもらうことをしましたが、これも教師主体ではなく子どもたちの声からの催しでした。主体性を大切にする取り組みに保育者も慣れていったように思います。

毎週火曜日に総合体育の指導員から体操を習い、子ども達は元気に運動に取り組み、もともと活発な子どもは更に運動神経が育ち、運動が苦手な子どもも運動に対する苦手意識が薄らいでいます。

水曜日にネイティブスピーカーと日本人のペアで英語を習っていることにより、英語の歌を楽しみながら歌い、異文化を知るきっかけにもなっていました。また、ネイティブスピーカーの先生も積極的に英語で話しかける子どもが増えています。

木曜日のリトミックでは音の高低を聞き分けて、体を動かすことができるようになっていきます。また、いろいろなリズムを体で感じ指示に従って体で表現することができるようになっていきます。

体操、英語、リトミックを指導していただき幼稚園の活動に幅ができました。

7. 今後の課題

- ・先年度は子どもの主体性を大切にする保育に職員が慣れてきました。今年度も更に環境設定、言葉かけの方法を磨き小学校入学前の10の姿に近づくよう保育に当たりたいと思います。

- ・体操、英語、リトミックは引き続き同じところから講師を派遣してもらっているので、更に園児のスキルアップにつなげたいと思っています。

8. 学校関係者評価委員会を開催した。

9. 学校関係者評価委員会で園の取り組みについて、また、保護者からの評価、園の自己評価を説明した。

10. 学校関係者委員からの講評をいただいた。

◎港区スクールカウンセラー、認定心理士、心理カウンセラー菊池幸子先生より

*教育理念・教育目標について

サンタ・セシリア幼稚園の土台となるものです。何時も変わらないこの考えはしっかりと先生方に根付いております。子どもの主体性を伸ばしていこうとする姿を目にしまして素晴らしい教育だなと感じておりました。話し合い活動は、大事なことで誰もが平等に話し合える環境づくりは大変だったと思います。

運動会を拝見しましたが、それぞれの競技で園児一人一人が活発に活動していて毎週火曜日に体操を習っていることの成果と感じました。リトミックで培ったリズム感をそれぞれの遊戯で発揮できていたと思います。

音楽発表で聴かせてもらった英語の歌も発音が素晴らしかったです。

*教師の自己評価について

ベテランの先生、フリー勤務の先生方の貴重なご意見を拝見いたしまして、それぞれの立場でご意見を述べられていると感じました。

今年度は、グラフ化されており、とても見易かったです。よい環境作り、子どもの心の状態の把握や言葉かけなど、どの項目に於いてもよい成果を出されていると思いました。立場・立場によってももの見方・考え方も少し違ってくることがあるかもしれませんが、先生間での話し合いはとても大切と捉えますので今後闊達な意見交流がなされることを希望いたします。今後も限られた時間の中でのカリキュラムの編成も大変であろうと想像しますが、先生たちの創造性や実践に期待をしております。

*保護者のアンケートについて

保護者の皆様は我が子らが、明るく・元気な園生活を送り発達、成長することを願って期待も大きいと思われれます。子どもの心に寄り添った先生方の心温かい丁寧な指導が保護者の安心感になっていると思われれます。保護者の考え方は、多様なご意見でもありますが、保護者・教師の皆様方が子供のよりよい成長を目指して、共に未来に向かって歩んでいくことが大事なことでないでしょうか。

私から申し上げることは、先生方が常々実践されております。これからも、一層教育の可能性を見据え、精進されます事をご祈念申し上げます。

令和6年4月13日 菊池 幸子

◎幼稚園理事、元湘南白百合学園幼稚園園長、日本カトリック幼児教育連盟常任理事
相馬たゑ子先生より

- * 預かり保育や子ども達が主体的に行動する保育を取り入れて先生方が戸惑いながらも丁寧に対応している事が、保護者から園への高い評価をいただいていると思いました。

- * 課外活動の英語、リトミックの見学希望やカリキュラム内容希望は、学期の終了時期、降園時に短時間の見学や、簡単なカリキュラム提案で保護者の希望に添えるのではないでしようかと思います。

- * 先生方の自己評価も会議での意見交換やカリキュラム内容の改善等を考慮なさっているようでしたので、これからの保育に反映されると良いと思います。
行事保育を拝見して、先生方の明るく丁寧な対応が行われていると感じました。

- * 体操、英語、リトミックを専門の先生に教えてもらっている成果が出ていると、園の行事を拝見して思いました。

学校法人聖心学園 幼稚園担当理事 相馬 たゑ子
(元湘南白百合学園幼稚園園長、カトリック幼児教育連盟常任委員)

◎聖心学園幼稚園 園長柴崎公子先生より

保護者・教員の両アンケートから、保育内容への満足度が伺えました。
幼児が、「自分たちで生活をつくりあげていく」
スタイルが少しずつ定着し始めた成果ではないでしょうか。
保護者の自由記述に、幼稚園を信頼し、感謝されているコメントが多く上がっており、良い保育をされていることがわかりました。
柴崎 公子